

## 活動レポート

### 6. 平成18年度 新任者教育講座

平成18年7月7日、教育・企画委員会主催、(社)日本環境測定分析協会関東支部共催で下記内容の新任者教育講座が開催され、今期は昨年とほぼ同様の17社34名の参加者が受講されました。受講時にアンケートも実施されましたが、「わかり易かった」「役に立った」との意見が多数を占めました。また、要望として「終了後に懇親会を開催してほしい」などの意見もいただきました。

場所：プラザ菜の花

時間：10:00～16:00

内容：

- ①環境計量の仕事とは 津上 昌平 氏 習和産業(株)環境ビジネス事業部  
環境計量士 千環協会長
- ②労働安全衛生について 末松 清志 氏 中央労働災害防止協会  
社会保険労務士 安全教育センター講師
- ③精度のよい測定のために 村上 雅志 氏 (株)住化分析センター環境技術センター  
環境計量士 千環協技術委員長

No.	氏名	事業所名
1	石井 晋	出光興産(株)中央研究所
2	長谷川泰之	(株)上総環境調査センター
3	前野 宏明	
4	山下 勲	
5	多田 弘史	
6	勝野 ひかり	(株)環境管理センター
7	高橋 正興	東関東支社
8	堀内 達雄	キッコーマン(株) 分析センター
9	露崎 なお見	合同資源資源産業(株)
10	稲葉 利晴	(株)三造試験センター
11	平野 祥吾	(株)新日化環境
12	山口 亮士	エンジニアリング
13	石竹 美帆	(株)住化分析センター
14	目黒 暢子	
15	佐々木謙次	(株)太平洋コンサルタント
16	金田 洋介	
17	石渡 智恵美	

No.	氏名	事業所名
18	及川 啓之	妙中鉱業(株)
19	山崎 敏昌	総合分析センター
20	加藤 博	中外テクノス(株)
21	菊池 優	
22	松尾 博和	(株)東京化学分析センター
23	滝澤 晃	
24	石井 知行	
25	森田 香	
26	生島 晶子	
27	関根 裕	東電環境エンジニアリング
28	長嶺 貴子	(株)環境技術センター
29	菅原 章	(財)成田国際空港振興協会
30	三宅 桂子	日建環境テクノス(株)
31	中嶋 陽一	(株)古川電工 エンジニアリングサービス
32	伊藤 美里	(株)ユーベックス
33	中村 雪枝	
34	春名 由佳理	

\*上記表は事前の参加者名簿を元に作成しましたが、当日の参加者変更やお名前間違いを反映できていない可能性があります。ご容赦ください。

## 平成 18 年度新任者教育講座を終えて

株式会社上総環境調査センター  
分析 I 課 多田 弘史



「環境計量の仕事とは?」、入社して三ヶ月が経とうとしていた私ですが今回の講座を受ける前まで、あまり広い視野を持つことができていませんでした。

環境計量の仕事はさまざまな化学物質の汚染による分析対象の多様化など時代の流れによって変わってきています。講座の中でもチェック試料の話など、まだ自分の知らなかった分析の手法を学ぶことができました。環境計量の仕事をしていく上で知識の幅を広げていくためには、世の中の動き、トレンドといったものも重要であると感じることができました。

私は環境計量の仕事に携わってまだ間もないですが、人々の生活を支える環境の仕事をしている以上自分の仕事には責任を持たなければいけません。良い分析をするためには精度管理が重要なテーマになってきます。これを充実させていくためには、分析室の掃除、分析器具の管理など基本的な仕事を大事にしていき、よい分析・精度良い分析をするよう心がけ技術を高めていきたいです。

今回は他社の方々とも接する機会もあり、皆高い意識を持った自己紹介が聞けてとても刺激になりました。

最後になりますが本講座をひらいてくださった関係者、講師の皆様にも心より感謝申し上げます。

## 平成 18 年度 新任者教育講座を終えて

株式会社 環境管理センター  
勝野ひかり



今まで、私は環境や分析化学とはあまり関係のない分野を専攻してきたため、環境関係の法令や化学的な分析手法に疎く、生来の要領の悪さも手伝って、何をするにも職場の先輩方に多大なご迷惑をかけてしまっているのが現状です。

そのため、この講座を通して計量法や関係法令、環境測定に関する分析化学の基礎について、その概要を体系的に知ることが出来たことは、大変勉強になりました。

特に、機器分析についての基本的な考え方や注意点、分析値に対する評価の仕方については、今まであまり意識してこなかった問題だったので、とても参考になりました。また、調査の目的により関係法令が異なり、それに伴って適応される分析方法も変わるため、調査の目的を正しく理解することの大切さも学ぶことが出来ました。

同時に、環境分析が社会に及ぼしうる影響力をよく理解すること、そして自分が携わった分析結果に対し、責任を持つことの重要性を改めて感じました。

今後は、これらのことを念頭におき、この講座を通して学んだことを、これからの仕事に活かしてゆけるよう努めて参りたいと思います。

最後になりましたが、本講座を開いてくださった関係者及び講師の方々に、心より感謝いたします。

## 平成 18 年度新任者教育講座を終えて

株式会社 環境管理センター  
高橋 正興



今回の講座を振り返って、私は大学院を通じて学んだ分析とは異なった、企業としての分析業務に大きな違いを感じました。

それは、企業の業務は安全第一かつ精度が何よりも重要という事です。大学院時代は自分の身は自分で守るからと思い、危険の伴う実験においても、データを出す喜びに一心になってしまう事が多々ありました。分析精度に関しても、大学院では失敗してもやり直しがきくという考えもあり、特に重要視する事はありませんでした。

環境分析業界の企業として、そのような考えを生むことは最も危険を伴い、また確実に良い精度で分析結果をお客様に提供する事が当然なので、決してこのような考えをしてはならないという事を学びました。

その他にも、環境分析の精度は生涯学習がつねに不可欠な、最新の的確な精度管理が必要であると心から感じました。

現在の私は環境調査員の仕事をおこなっていますが、環境計量での仕事の重要さは分析の正確さだけでなく、むしろ調査員のサンプリングに大きく依存しているという事もわかりました。

今回の講座は、これから環境計量業界に携わっていく新任者の私にとって、何よりも大きな基盤となりました。

最後に、本講座を開いてくださった関係者及び講師の方々に心より感謝申し上げます。